

科目名	事業創造論特講	担当者	コバヤシ 小林 三夫	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>今や、大企業となったホンダやソニーもベンチャー企業であった時代がある。現在の日本経済のみならず、世界経済の更なる活性化のためにも、ベンチャー企業とアントレプレナー（起業家）の存在は欠かせない。本論では、このベンチャー企業の定義より初め、いかにベンチャー企業を立ち上げていくか、につき基礎から応用まで採り上げるものである。最終的には、参加者各自の夢を事業創造、ベンチャー・ビジネスとして実現させることを目標とする。同時に既存企業におけるイノベーションを考慮してイノベーションの本質を理解する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベンチャー・マネジメントの基礎を、理論面を含めて理解する。 2. 組織運営と人材マネジメントのあり方を考える。 3. 起業家の本質を理解する。 4. 実在の企業をケーススタディとして、事業創造の問題点を考える。 5. 自分自身のアイデアで事業計画書を作成し、実現できるようにする。 		
学修方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済・世界経済の活性化のために事業創造、ベンチャー企業とアントレプレナーの出現は重要である。 2. 教材・参考図書で基礎を学び、その後具体的なケースとして企業を研究する。 3. 自分自身の事業アイデアでベンチャー企業を立ち上げた場合、事業計画の立案、経営戦略をいかに作成するか、マーケティング、組織運営と人材マネジメントはどうするか、ファイナンスはどのようにするか、資本政策・資金調達、などを把握する。 4. 講義の最終段階では、自分自身の自由な発想で事業計画を作成していただく。その際、創業の精神、企業の理念も明確に提示して欲しい。 		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期は、ベンチャー企業感が変化してきた背景について日本経済の発展と関連して理解する。『ベンチャー企業の経営と支援・新版』、『ベンチャー・ビジネス論』を教材とする。 2. 後期は、ケーススタディとして、具体的なベンチャー企業の実例を挙げて、成長ステージ別にどのようなマネジメント・スタイルがとられてきたか理解をする。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	課題レポートの内容を重視する。 レポートの形式についても注意すること。
	平常評価	%	
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教材を良く読み、ベンチャー・マネジメントの基礎を、理論面を含めて理解して欲しい。 2. 組織運営と人材マネジメントのありかたを考える。 3. 起業家の本質を理解する。 4. 実在の企業をケーススタディとして、その成長ステージ別にどのようなマネジメント・スタイルがとられていたかを理解する。 5. 自分自身のアイデアで、事業計画書を作成してみる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 松田修一監修・早稲田大学アントレプレヌール研究会編 教材名： 『ベンチャー企業の経営と支援（新版）』（日本経済新聞社，2000年） ISBN:978-4-53-213191-3 4,100円+税 著者名： 大田一樹編著 教材名： 『ベンチャービジネス論』（実教出版，2007年） ISBN:978-4-40-731077-1 2,300円+税 まず、ベンチャー企業とは何かを理解する。このため、ベンチャー企業の定義から、ベンチャー企業をいかに立ち上げるか、経営戦略はいかにあるべき等多数の問題点・課題につき、教材を利用しながら、深い知識を得る。ベンチャー企業への支援策につき、本邦における公的な支援を概観する。
参考図書	松田修一著『ベンチャー企業（第4版）』（日本経済新聞社，2014年） ISBN:978-4-53-211303-2 1,000円+税
履修上のポイント	1. ベンチャー企業の位置づけと支援の必要性を十分認識する。 2. ベンチャー企業・アントレプレナーとは何か、を理解する。 3. ベンチャー・マネジメントの基礎を、理論面を含めて深く理解する。 4. 実在の企業のケース・スタディを基に、事業創造の問題点を考える。
レポート課題 1	ベンチャー企業観が変化してきた背景について、日本経済の発展と関連して、説明せよ。 留意点： 日本経済の発展については、時系列的に明示すること。
レポート課題 2	ベンチャーキャピタルの役割と活用法について、述べてよ。 留意点： 具体例として、1社以上を選ぶこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 金井一頼，角田隆太郎編 教材名： 『ベンチャー企業経営論』（有斐閣，2002年，何回も増刷されています） ISBN:978-46-4-116135-1 2,300円+税（Amazonで中古が多数出ています） 後期は前期で理論面を中心に取得した知識を実践できるよう更に高めていくことを目標とする。このため、事業アイデア・ビジネスモデルの具体的な作成から、起業家になるためのスキル等実践的な知識への理解を深める。 同時にイノベーションについても理解する。既存企業内におけるイノベーションに注目しイノベーションとは何かを理解する。
参考図書	ウィルソン・ハーレル『起業家の本質』（英治出版，2006年） ISBN: 978-4-90-123492-4 1,600円+税 一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』（日本経済新聞社，2001年）ISBN:978-4-53-213223-1 2,800円+税
履修上のポイント	1. スタートアップ戦略と事業計画作成のスキルへの理解を深める。 2. 組織運営と人材マネジメントのあり方を考える。 3. 起業家の本質とは何か、を考える。 4. 資本政策の問題点を探る（できれば、実在の企業を分析する）。
レポート課題 1	ベンチャー企業の実例を挙げ、成長ステージ別にどのようなマネジメント・スタイルがとられてきたか、レポートせよ。 留意点： 具体例として、1社以上を選ぶこと。
レポート課題 2	自分自身のアイデアで、事業計画書を作成しなさい。 留意点： アイデアについては、自由な発想をすること。アイデアに新規性や具体性があれば、レポートの分量は問わない。